道程

西東京市立ひばりが丘中学校
第３学年
第１７号
令和７年６月１８日発行

定期考査まであと５日ですが、提出物など計画的に進められているでしょうか。放課後は質問教室やひばりルームを有効活用してください。みなさんの頑張りに期待しています。

今回はＢ組の運動会の作文を紹介します。

「ファイナルラスト運動会ジ・エンド」

Ｂ組

運動会が終わった。優勝できなかったのは悔しかった。でもソーランをやり切ったことの大きな達成感は、その悔しさを大きく上回るものだった。そして、何よりうれしい誤算があった。

運動会が始まる前の感情はネガティブなものが大きかった。「ひばりラン疲れるからいやだな。」とか「リレー緊張するからやりたくないな」とか。それでも僕は運動会の、皆で応援して盛り上がる楽しさを知っていたから、気持ちを切り替えていくしかなかった。開会式が終わって席についた。やはりひばりランはとても疲れた。でもここからしばらく自分の嫌がっているリレーはなく応援だと思うと楽しくなってきた。一、二年生の学年種目が終わり、三年生のムカデ競争の番が来た。正直ムカデ競争は最下位だと思っていた。直前の練習で男子が転びまくっていたり、予行の時に男女ともに調子が悪かったりしたからだ。でも本番は違った。女子は順位が上がらなかったものの、とても速くなっていたし、なんと男子は一度も転ばずに他のクラスを抜かすことができて四位になれた。それがとっても嬉しかった。本当に。

次は各学年のリレーだった。後輩とのつながりは薄いので応援する人はとても少なかったが、全力で応援した。ついに三年生のリレーだ。心臓が小刻みに脈を打つ。自分の番は四番目だったので、すぐに終わると自分に言い聞かせて落ち着こうとしたが、落ち着く前に自分の番がきてしまった。予行で二位だったから本番では抜きたい。そんな思いで走っていた。無事一位でバトンを渡すことはできた。結果は四位だったがそれだけで満足だった。

最後の運動会だったが、一番短く感じた。それほど楽しんでいたのだろう。残り 10 ヵ月ぐらいしかこのクラスにいられないのが余計に寂しく思えた。

「楽しんだもん勝ち」

B組

今年の運動会、三年生の競技種目は「ムカデ競争」「ソーラン節」「全員リレー」「選抜リレー」の四つだった。ソーラン節は二年生の三学期から地道に練習を重ねて、基本的な踊りから隊形移動まで時間をかけて行ってきた。わからないところは友達と協力して教えあい、踊りを完璧に仕上げることをした。また、ムカデ競争では両足に縄を結び、仲間と息を合わせ、どれだけ団結して前へ進めるかを競うものだった。声かけも足をそろえて進むためには欠かせないため、私たちのクラスの女子は「１・２・１・２・平井珠莉、はい！」というのにした。そして、選抜リレーは各クラスの足が速い人が男女四人ずつ選ばれ、選抜として各学級対抗リレーを行うものだ。私はこれまで一度も選ばれたことがなかったが、三年になって野球部のトレーニングの成果もあり、選抜に出ることができた。とてもうれしかった。三年生になると、すべての行事に「最後の〇〇」とつくので、全力で楽しもうと思った。

そして、最後の運動会当日。ムカデは女子が少し遅かったが、男子にタスキを渡し、男子が頑張ってくれたおかげで四位になり、予行よりも良い結果となった。リレーは、バトンパスなどのミスはなかったが、予行の前から体調不良者が多く、予行より良い結果にはならなかった。けれど、みんな「nice run」だったと思う。競技種目はすべて四位だった。

最後の運動会ぐらい優勝したい気持ちはあったが、総合最下位でもすごく楽しかった。全力でやりきったし、仲間との団結力や絆も生まれたからだ。私は勝ち負けにこだわるより楽しんだもん勝ちだなと思った。思い出に残る一日だった。これからも今回成長したことを最後の行事に活かしていきたい。